

カタストロフィの哲学第3回

伝播する核のイメージ

3. 11以降、私たちはカタストロフィのイメージの氾濫に曝された。
そのイメージは、文字通り私たちから言葉を奪うものだった。

とりわけ新聞やテレビで反復された福島第一原子力発電所における事故のイメージは、
強烈なインパクトをもって私たちの脳裏に焼き付けられている。その事故はいまだ現在進行中であるが、
それゆえにこそ現在は福島原発をめぐるイメージと言説が生成される過程にある。
まさにその過程に立ち会う者として、私たちはどのようにそうしたイメージと向きあうことができるのか。

ヒロシマ・ナガサキ、そして核実験、原発事故をめぐるイメージとナラティブの歴史を参照しながら、
いくつかの問題を確認し、議論する場を設けたい。

日時 2011年5月23日（月）18:00～19:30

場所 東京大学駒場キャンパス18号館 コラボレーションルーム3

土山陽子「イメージの伝播と記憶の構築：長崎の原爆写真1945-1995年」
早稲田大学・パリ社会科学高等研究所(EHESS)、写真史・写真論

安永麻里絵（司会） 東京大学大学院総合文化研究科・UTCP研究員、近代美術史・美術館展示史
中尾麻伊香（ディスカッサント） 日本学術研究会特別研究員・UTCP共同研究員、科学史・科学論

入場無料・登録不要（総合文化研究科関係者のみ）

主催 東京大学グローバルCOE「共生のための国際哲学教育研究センター」（UTCP）